

室蘭製油所の事業再構築について

各 位

当社(社長:一色 誠一)は、本日、室蘭製油所(所長:三ツ井 克則)について、2014年3月末に原油処理を停止したうえで、同年6月より、石油化学製品の製造および石油製品の物流拠点として事業を再構築(以下、「石化工場化」)することを決定しましたので、お知らせいたします。

当社は、現行中期経営計画における基本戦略のひとつとして、内需減退に先んじた国内トップの競争力を備えた製油所体制を構築すべく、精製能力の削減に取り組んでまいりました。

今般、更なる競争力強化に向けて、様々な観点から総合的に検討した結果、室蘭製油所において、原油処理(日量18万バレル)を停止する一方で、新たに設備投資を実施のうえ、二次装置[※]を活用することにより、アジアを中心に大幅な需要の増加が想定される石油化学製品の製造拠点として、高機能化・高付加価値化を追求することといたしました。

石化工場化後は、SKグループと合併で韓国に新設するパラキシレン製造設備(2014年度 稼働予定)用の原料となるアロマ基材等の製造・輸出を行ってまいります。

また、石油製品の物流拠点としての油槽所機能は存続し、引き続き北海道地区への灯油をはじめとする石油製品の安定供給に向け、万全の体制を確保いたします。

※ 原油処理を行う常圧蒸留装置を一次装置というのに対し、それ以降の精製装置を二次装置という。

<室蘭製油所 事業再構築の概要>

1. 所在地
北海道室蘭市陣屋町一丁目172番地
2. スケジュール(予定)
2014年3月末 原油処理停止(常圧蒸留装置の廃止)
2014年6月 石油化学製品の製造開始(石化工場化)
3. 石化工場化後の主な事業内容
 - ① 石油化学製品の製造・輸出
 - ② 石油製品の受入・備蓄・出荷(油槽所機能)

以 上

● 別添資料

 [JX日鉱日石エネルギーの製油所体制](#) (PDF:54.3 KB/1ページ)